平成１７年度

第３回　水源林造成事業期中評価委員会

議　事　録

平成１７年７月２１日（木）

於　砂防会館

林　野　庁

１　期中評価委員会出席者

(1) 評価委員

岡田 秀二　　岩手大学農学部教授

河原 輝彦　　東京農業大学地域環境科学部教授

栗原 慶子　　全国林業研究グループ連絡協議会女性会議代表

谷本 丈夫　　宇都宮大学農学部教授

眞板 秀二　　筑波大学農林工学系助教授

(2) 林野庁

沼田 正俊　　整備課長

上田 浩史　　整備課監査官

(3) 独立行政法人緑資源機構

高木 宗男　　森林業務担当理事

安藤 伸博　　森林業務部長

２　議　事

・　資料４により第２回委員会における指摘事項等に係る対応等について説明。

［意見交換］

○委員

水源林造成事業の個別事例は大変分かりやすい。どのように選定したのか。

○事務局

水源林百選の森の中で、水源林造成事業地の占める割合が高いところ、水源林造成事業の効果の分かりやすいところという観点で選んでいる。

○委員

アンケートの整理の仕方はよいと思うが、今後これをどのようにアピールしていくのか。

〇事務局

アンケートの集計結果については、水源林造成事業を今後どうしていくのかということを検討する際、例えば次期中期目標、中期計画に向けて緑資源機構の事業を検討していくなどの機会に参考資料として使っていければと考えている。

〇委員

地元からの要請としては、再造林への期待、あるいは水源林造成事業の実施主体としての緑資源機構に対する期待というのは大変強いと感じた。このあたりをきちんとアピールできるような機会をぜひ得るようにしてほしいと思う。

〇委員

３ページの契約地の立木の伐採後の取り扱いで、自力で造林していこうという人が５％しかいないわけで、これは考えてみると大変な問題である。

〇事務局

保安林なので伐採後２年のうちには再造林が必要になってくることから、非常に大きな問題だと考えている。

〇委員

実際に山をやっている人というのは、機構で再造林をやってもらえるならばお任せしたいというのが本音だと思う。自力で造林しようという人が５％というのも、お任せしてやってもらえれば、とにかく木を植えて、きちっとやってもらいたいという、それが本音ではないかと思う。

・資料５により費用対効果分析の試行結果について説明。

［意見交換］

〇委員

費用対効果分析の数値はすべて２以上であり特段問題はないのではないか。

〇委員

ここに出された数字や手法について特段の意見はないが、この林野公共事業評価マニュアルが他省庁との関係でどのような位置づけなのか教えてほしい。というのは、今ダム問題があちこちで起きている。ダムを評価するときには、利水にしろ、治水にしろ、ダムはダムだけの評価しかほとんどしない。周辺の森林がどのような状況になっているかの評価がない。林野マニュアルについて、他省庁にどのようなアピールなり、働きかけをしているのかを聞きたい。

○事務局

事業評価については、省庁間で連携を取り合って実施するということではなくて、それぞれの省庁に任されているというのが今の現状かと思う。

○委員

ダムの関係で林の部分、山の部分がどれぐらい治水効果があるのかということについて、ぜひ他省庁との意見交換をしておいていただきたい。

○委員

今の話は結局手法の問題だと思うが、評価についてはお互いに共通の土俵の中で議論できるような格好になかなかなっていない。いろいろ努力しているのだと思うが、努力の途中の段階だと思う。林野庁の評価は代替法という方法でやっているがそれ以外にもいろいろな手法があり、それをどのように取り込んでいくのかということは、研究の段階でも大変な問題になっているのだろうと思う。だから、それが非常に分かりやすく説明できることになっていれば、例えば林野庁の水源林や治山事業など、すっきりとあまり悩まないで説明できるようになるのだと思うが、まだそこまで至っていないという感想である。

・　資料６により「項目別取りまとめ表（案）」について説明。

［意見交換］

○委員

項目別とりまとめ表の13ページ、「事業の進捗状況」の「植栽・保育の実施状

況」で、下刈り、除伐の平均実施回数などが出ており、これがこの地域の平均的なものと比べて多いのか少ないのかというのはこの部分だけではよく分からない。例えばその上の事業費については、標準的な事業費と比べてその数値を評価しているのだが。

〇事務局

水源林造成事業の評価については、契約年度ごとに複数の植栽地を一つの地区としているため、実際には一地区内の林齢や施業履歴に幅がある。第２回委員会のときに、第１回委員会でのご指摘に対する回答として、個々の作業種ごとの進捗はどうなっているのかについて表をお示ししたが、あのような形以外の示し方は困難であり、ご理解願いたい。ここでは、各地区ごとについて、幅がある中でとりあえず平均実施回数だけを事実として示している。

〇委員

下刈りの回数がこれだけ多いということについては、何かここでコメントしておくべきではないか。

〇委員

10年間で9.7回というのは、前回の委員会では、改植して、それが累積加算されているから結果的に多いのだと、実際にはもっと少ないのだという説明だったと思う。3,000本植えて10年間も下刈りしなければいけないような山では、多分広葉樹が混じってしまうので、成林するあかつきには広葉樹林との混交林になってしまうようなイメージの山だと思う。

〇事務局

比較的林齢の小さい地区、昭和60年以降の契約地区がこのような表現になっている。委員会は今回で最後なので、公表に当たっては、座長と相談の上、表現を検討させていただいて、各委員のご了解を得る形にしたいと思う。

〇委員

11ページの「事業コスト縮減の可能性」で、用語が混乱している。植栽木の成長に伴って、初回の本数調整が必要な場合の選木費をかけない伐採と間伐との関

連が分かりにくい。初回の本数調整について、積極的に除間伐のような形で本数を落とすというイメージなのか、ただ単に競争しているところで不良木を取り除くというイメージなのか。本数調整だと、かなり積極的に本数を調整するという間伐のイメージになる。下刈り後に生えてきた不良木、雑草木など、期待する木の成長を阻害するようなものを取り除く、あるいは残しておいても仕方がない木を取り除くという意味だと、本数調整という用語は少し強すぎるのではないか。

○事務局
　この部分は昨年までの期中評価でこのような表現を使ってきたところであるが、表現を再検討させていただきたい。

○委員
　「関係者の意見・意向」のところで、「地元からの機能発揮への期待が大きく」という表現をどこかに入れてほしい。先ほどのアンケートを受けた形としてはもう少しインパクトが欲しい。

○事務局
　それについても検討させていただきたい。

○委員
　これまで各委員から出された意見のうち、項目別取りまとめ表の修正に関わるものについて、具体的な修正は私の方にご一任願えるか。

○委員
　（異議なし）

・　委員会における期中評価結果の取りまとめについて

［意見交換］
○委員
　本委員会における期中評価結果の取りまとめについて検討するが、まず事務局の方から説明をお願いする。

○事務局

まず、「平成17年度水源林造成事業期中評価委員会における評価検討について」は、委員会としての期中評価のまとめであり、構成については昨年と同様としている。

これまでの検討内容については、先ほどご審議いただいた項目別とりまとめ表として整理した。この結果、「植栽木が順当に生育している林分がほとんどを占める地区については、項目別とりまとめ表の留意事項を遵守することを条件として『継続』」。「気象害等で広葉樹林化した林分および植栽木の生育が遅れている林分が一定程度以上を占める地区については、一部の林分について事業内容を見直しの上『継続』として、それらの林分については施業方法を変更する、または当分の間必要最小限にとどめることとした」という形、去年と同じ形でいかがかというように考えている。

また、「期中評価委員会における期中評価結果」、これは地区ごとの評価表であり、48地区について評価している。このうち32地区が「継続」、16地区について「一部の林分について事業内容を見直しの上、継続」という形で、これまでのご議論を集約した形で整理させていただいており、これが本委員会としての成果になろうかというように考えている。

○委員

「１　水源林造成事業期中評価の基本的考え方」の（２）について、「地域の民有林をめぐる状況は、森林・林業、山村の大きな変貌から、林業生産のみを通じて適正な整備を図るのは大変厳しいのだ」というような意味合いを明確にした方が良いと思う。

○事務局

いただいたご意見を基に文章を修正してお諮りする。

○委員

「期中評価委員会における期中評価結果」についてはいかがか。

○委員

各地区の評価結果に少し地域の特徴を出した方がいいのではないか。一般的に、このような評価結果が出たときに各地域が全部同じような文章では、おざなり的にまとめているのではないかと捉えられてしまうおそれがある。せっかく各評価地区ごとにきちんと評価をやっているのだから、各地区の特色を出すような文章になっているほうが受ける人たちの意識が違うのではないかという気がする。

○事務局

最終的な評価結果は林野庁による評価としての公表になるので、評価結果をまとめたときに、委員会としての結論はなるべく端的な形で一般の方に見ていただくということを意図している。その場合の端的な表現をここでご審議いただき、ご了解いただければ、これを委員会としての結論とさせていただいた上で、林野庁の評価結果の中に盛り込みたい。なお、林分の状況や地区ごとの特性などは評価結果の表の中にも盛り込んであるので、地区ごとの色合いは出ているというようにご理解していただければと思う。

○委員

これだけ膨大な資料を見せていただいてこのような結論になったのだというのは、委員会の中ではこれですぐ分かると思うが、この評価結果だけが出ていたときに、全部同じような、一字一句変わらないというような体裁がずらっと並んでいると、ちょっと奇異に感じるかなという気がする。本日、委員会の限りでは、このような文章で特に問題ないが、公表するときにはせっかく努力されているのだから、もう少しＰＲ効果があるような表現を工夫するともっと良くなるのではないか、ということである。

○事務局

本日ご議論いただいた「項目別とりまとめ表」が本委員会としての最終取りまとめ結果になるが、その一番最後の部分に、それぞれの評価地区ごとの評価結果をつける形にすれば、委員のご意見のように地区ごとの違いを踏まえた評価が明確になるのではないかと思う。体裁についてはまたご相談させていただきたい。

○委員

委員会における期中評価結果の取りまとめについてはこれで了承とし、事務局で検討の上、早急に文章化し、委員の了解を得るということでよろしいか。

〇委員

（異議なし）